

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
地理B	地理B	1	A～F	2	必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	吉田 宣浩
授業形態	講義
教科書	新詳地理B(帝国書院) 新コンパクト地図帳改訂版(二宮書店)
使用教材等	新編地理資料(とうほう)2018

科目の目標・内容等

学習目標	現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。
学習における留意点	主体的に学ぶ姿勢を持ち、授業に積極的に参加するようにする。
予習・復習	予習は特に必要としないが、授業で学習した事柄に対して自分なりにより深く考え理解を深めるよう復習を心がける。
評価方法	主として定期考査だが、長期休業時の宿題や課題テスト、平常点(プリント類提出や授業態度など)を考慮する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	様々な地図と地理的技能	地球儀や地図からとらえる世界、結びつく現代世界地図で読む解く。大縮尺の地図について学ぶ。自然環境と防災、地理的な諸課題と地域調査を学習する。	地形図の読図、主題図の作成ができるか。日本の自然災害の特徴を理香で着ているか。ハザードマップを活用できるか。
2	現代世界の系統地理的考察	世界的視野から見た自然環境と文化諸地域の生活・文化と環境などについて詳しく学習する。	系統地理分野は、大学入試においても重要な分野になる。学習事項をきちんと自分のものになっているかどうか。
3	現代世界の地誌的考察	現代世界を、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなどの各地域ごとに考察する。	東アジア・東南アジア・南アジア・アフリカ中南部・ヨーロッパ及びロシア・北アメリカ及び中南アメリカ・オセアニアなど各地域の生活・文化と環境について把握できているか。世界地図を活用できるか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
世界史B	世界史B	2	A～F	3	必修	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	遠山 久也 進藤 正勝
授業形態	講義・演習・鑑賞等
教科書	世界史B(東京書籍)
使用教材等	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店) 東書の世界史B 入試対策問題集

科目の目標・内容等

学習目標	高校卒業生に求められる、世界史の知識と教養を備える。
学習における留意点	静粛にして講義に集中するとともに、質問に対して積極的に発言すること。
予習・復習	短時間でよいが復習が必要。
評価方法	定期考査・ノート提出・プリント提出・平常点(授業態度等)・夏季課題 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	大交易時代 産業革命 アメリカ独立革命 ウィーン体制	大交易時代などをきっかけとしてヨーロッパ本位の世界の一体化が進んだことを理解する。 産業革命によって、資本主義社会が成立したことを理解する。 アメリカ独立革命という、現在の覇権国家が成立した事情を理解する。 ウィーン会議により19世紀ヨーロッパの枠組みが成立したことを理解する。	鉄砲伝来・ザビエル来日の前提を成す世界の一体化について十分に理解しているか。 産業革命と資本主義社会の関連について十分に理解しているか。 アメリカ独立革命の今日的意義について十分に理解しているか。 明治日本が模範とした19世紀ヨーロッパの起源について十分に理解しているか。
2	イギリス立憲政治 ドイツ・イタリアの統一 アメリカ合衆国の発展 東方問題とロシア オスマン帝国の動揺	19世紀イギリスによる立憲王政と植民地支配や、19世紀ドイツによる武力による国内統一と対外進出について理解を深める。 アメリカ合衆国がカリブ海・太平洋への進出へ至る経緯を理解する。 バルカン半島に勃発した東方問題の本質が、19世紀を通じたイギリスとロシアの対立であったことを理解する。 オスマン帝国のタンジマートが、時期的にも内容的にも明治維新に酷似することを理解する。	19世紀イギリスとドイツの発展が、共に明治日本に示唆を与えたことを十分に理解しているか。 ペリー来航に至る米の動きについて十分に理解しているか。 ロシアとの争いを通じてイギリスの覇権が確立する19世紀ヨーロッパ外交の潮流について十分に理解しているか。 ヨーロッパの外圧に直面したアジアの動きとして、タンジマートと明治維新の共通性について十分に理解しているか。
3	インドと東南アジアの植民地化 東アジアの激動 アフリカと太平洋の分割 中国の分割と日露戦争	19世紀ヨーロッパによるインド・東南アジアの植民地化の経緯について理解する。 アヘン戦争から洋務運動に至る中国の植民地化について理解する。 20世紀初頭における欧米諸国によるアフリカ及び太平洋の植民地化の経緯について理解する。 日清戦争・義和団事件・日露戦争を通じた国際情勢を、列強の対立関係において理解する。	英領インド帝国や仏領インドシナ連邦・蘭領東インドなどの起源について十分に理解しているか。 洋務運動と明治維新の共通性と相違について十分に理解しているか。 アジア・太平洋戦争の前提を成す米の太平洋進出について十分に理解しているか。 日露戦争前後で国際関係が変化したことを十分に理解しているか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
日本史B	日本史B	2	ABCDEF	3	必修選択	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	内野 俊和 ・ 遠山 久也
授業形態	講義 ・ グループワーク ・ 演習 ・ 鑑賞
教科書	詳説日本史(山川出版社)
使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・新詳日本史(浜島書店) ・詳録新日本史史料集成(第一学習社) ・新日本史要点ノート応用編(啓隆社) ・江戸から東京へ(東京都教育委員会)

科目の目標・内容等

学習目標	日本の近代を中心とする歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
学習における留意点	グループワークや個人レポート・発表学習を取り入れながら、大学入試に対応できる内容とする。
予習・復習	毎時のワークブックや課題プリント等の予復習によって学習内容の定着を図る
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト、レポート等の提出、授業態度・発問応答評価

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史へのアプローチ ・歴史と資料 ○近代国家の成立 ・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史とは何かについて考察し、時代区分を理解する。 ・開国から明治維新に至るまでの過程を考察する。 ・明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 ・欧米文化・近代化政策の導入と士族反乱・農民一揆、言論による要求実現への転換を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文献史料や遺構・遺物から歴史が成り立つことを理解できたか。 ・鎖国政策と列強の接近を理解できたか。 ・開国、開港による経済・社会の情勢変化に着目できたか。 ・公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目できたか。 ・廃藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目できたか。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ○二つの世界大戦とアジア ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ・条約改正、日清戦争、日露戦争を考察する。 ・資本主義国家の基礎が確立された過程と、社会問題の発生を考察する。 ・第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移を考察する。 ・国際環境の推移を考察し、社会運動の動向を理解し、政党政治の発展から政党内閣制成立に至るまでの意義を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正、日清戦争、日露戦争を年表や地図から考察し、その背景や意義を理解できたか。 ・産業革命や近代産業の発展を考察できたか。 ・欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目して考察できたか。 ・大戦景気、米騒動や原敬内閣の成立に着目できたか。 ・中国・朝鮮における民族運動の高揚、様々な社会運動が起こってきた背景に着目できたか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民文化の特色を考察する。 ・国内経済の動揺を理解し、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ・政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程と、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ・全体主義的な国家体制の進展を考察し、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大衆社会の基盤の成立に着目できたか。 ・国内・国外の経済状況と対策に着目できたか。 ・国民生活の変化や諸統制に着目できたか。 ・日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目できたか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
日本史A	日本史A	2	ABCDEF	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	手塚 登
授業形態	講義・グループワーク・演習・鑑賞
教科書	高等学校日本史A人・くらし・未来(第一学習社)
使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・図説日本史通覧(帝国書院) ・江戸から東京へ(東京都教育委員会)

科目の目標・内容等

学習目標	日本の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
学習における留意点	グループワークや演習を取り入れながら、大学入試にも対応できる内容とする。
予習・復習	毎時の課題プリント等の予復習によって学習内容の定着を図る
評価方法	定期考査、ノートやレポート等の提出、授業態度・発問応答評価

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちの時代と歴史 ○近代への胎動 ○明治維新 ○近代国家の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史とは何かについて考察し、時代区分を理解する。 ・江戸時代の日本の対外関係と幕藩体制の仕組みを理解する ・開国に至る経緯と幕府の対応、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。 ・明治新政府の成立当初のねらい、初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸後期の日本の状況を、世界情勢と関連づけて、正しく把握している。 ・尊王攘夷運動から討幕へ移る流れをきちんと把握している。 ・士族反乱、自由民権運動、政党の結成、憲法制定の経緯や背景、またそれぞれがつながりをもっていることを理解している。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○対外関係の変化 ○政党政治の展開 ○近代産業の発展と社会運動の展開 ○国民生活の変化と文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正、日清・日露戦争に至る経緯と、その戦争がもたらした影響を理解する。 ・明治後半から大正期の政党政治の一連の流れを理解する。 ・産業革命がおこり、資本主義が確立したこと、その発展によってさまざまな社会問題が発生したことを理解する。 ・明治期と大正期の思想の違い、国民統制において、教育政策や国家主義的思想の果たした役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正の目的とその経緯・結果について、時系列に把握している。 ・日清・日露戦争のそれぞれの原因と結果を、正確に把握している。 ・日本がおこなったアジア諸国への勢力拡張の実態を把握し、また、この問題点についても理解している。 ・産業の発展がもたらす功罪について理解している。 ・思想、教育の大きな流れを、明治～大正期という長期的枠組みのなかで理解している。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦と日本 ○第二次世界大戦と日本 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が第一次世界大戦に参戦した理由、大戦が日本の外交政策に与えた影響、大戦による国際的な民族運動の高まり、大戦が日本に与えた経済的な影響を理解する。 ・資本主義諸国の経済危機への日本および各国の対応を理解する。 ・軍部の台頭の過程と、これに伴う政治的な状況の変化を理解する。 ・太平洋戦争に至る過程を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦が日本に与えた影響を正しく把握している。 ・日本の対外政策の内容を、対アジア諸国、対欧米諸国という視点から理解している。 ・日本の戦争に至る経緯を、時系列に正しく把握している。 ・日本がおこなったアジア諸国に対する政策の内容と問題点を、正しく把握している。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
政治・経済	政治・経済	3	3年A組からF組まで	2	必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	増田 和明
授業形態	クラス単位
教科書	第一学習社 高等学校 政治・経済
使用教材等	東京法令 政治・経済資料 2017 第一学習社 センター試験対策問題集 ステップアップ 政治・経済

科目の目標・内容等

学習目標	政治、経済、国際関係について考察することをとおして、主権者としての判断力の基礎を養う。
学習における留意点	ディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れるとともに、基礎・基本の定着を図る。
予習・復習	予習を前提とした授業を構成、復習を習慣づけるための毎時間確認テストの実施
評価方法	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治の基本原則と日本国憲法 現代の国際政治と日本 	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の三大基本原則について考察させるとともに、三権と地方自治、選挙制度について深く考えさせる。 二次大戦後の国際関係、国連のしくみや課題、民族問題や領土問題について深く考えさせる。 	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)により、関心意欲、基礎基本の定着度、思考力、判断力、論理性の観点から評価する。また、授業への取組をとおして、表現力やプレゼンテーション能力の観点を加味する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 現代経済のしくみと特質 国民経済と国際経済 	<ul style="list-style-type: none"> 三つの経済主体と経済活動について考察させ、市場経済の機能、金融財政政策、中小企業と農業、消費者、労働問題、社会保障、環境問題について深く考えさせる。 貿易と国際収支、国際経済機関の役割、地域経済統合、経済社会の諸課題、南北問題について深く考えさせる。 	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)により、関心意欲、基礎基本の定着度、思考力、判断力、論理性の観点から評価する。また、授業への取組をとおして、表現力やプレゼンテーション能力の観点を加味する。
3	現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障の課題、格差問題、農業・食糧問題、情報化社会の課題、資源・エネルギー問題、国際化と日本の問題について、テーマを設定して考えさせる。 	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)により、関心意欲、基礎基本の定着度、思考力、判断力、論理性の観点から評価する。また、授業への取組をとおして、表現力やプレゼンテーション能力の観点を加味する。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
世界史B	世界史B	3	3年生選択者	4	選択	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	進藤 正勝
授業形態	講義・演習・鑑賞等
教科書	世界史B(東京書籍)
使用教材等	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店) 東書の世界史B 入試対策問題集

科目の目標・内容等

学習目標	世界の歴史の概要について理解する。
学習における留意点	2年次の必修世界史を十分に理解していることを前提とした授業である。
予習・復習	プリントを利用した必須事項の再確認
評価方法	定期考査・平常点等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	オリエント世界とローマ アジアの古代文明	ローマ帝国による地中海文明権の 成立とキリスト教の誕生と発展 東アジアの中華文明と内陸アジア の遊牧国家の成立と発展	それぞれの文明圏の成立過程と特 徴を理解する
2	イスラム世界の形成と発 展 西欧世界の成立	イスラム世界の成立のその拡大 西ヨーロッパにおける封建社会の 成立とその解体	それぞれの文明圏の成立過程と特 徴を理解する
3	大学入試問題演習	問題演習を通じた総合的学力の養 成	世界史全体の流れと文明圏相互 の関係を理解する

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
日本史B	日本史B	3	選択	4	選択	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	内野 俊和
授業形態	講義・演習
教科書	詳説日本史B改訂版(山川出版社)
使用教材等	新詳日本史(浜島書店)、詳録新日本史史料集成(第一学習社)、新日本史要点ノート(啓

科目の目標・内容等

学習目標	日本史についての知識を身につけて理解を深める。さらに歴史的思考力を高める。
学習における留意点	主体的に学ぶ姿勢を持つ。予習、復習を行い、自己の学習理解を認知する姿勢を持つ。
予習・復習	計画的な予習と復習をこころがけ、板書を写すだけ、穴埋めをするだけの受け身の授業に
評価方法	定期考査・小テスト・各提出物 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	・第2次大戦後(4～5月) ・古代(6～7月)	・「占領下の日本」～「現代社会」 ・「飛鳥の朝廷」～「律令国家への道」	・占領期から現代までの歴史事項を流れのなかで理解できている。 ・古代国家の形成過程を理解できている。
2	・古代～中世(9～10月) ・問題演習(11月～12月)	・「平城京の時代」～「戦国大名の登場」 ・日本史全範囲の問題演習	古代後半から中世にいたるまで、政治史を軸として展開を把握できている。さらに中心軸に加えて、経済、社会、文化等のテーマを関連づけて正確な知識と理解を身につけている。 日本史のすべての範囲についてまんべんなく学習ができています。
3	・問題演習	日本史全範囲	種々の入試問題に取り組み、センター試験に準ずる問題で6.5割～7割以上の正答率をあげることができる。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
地理B	地理B	3	選択者のみ	4	選択	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	吉田 宣浩
授業形態	講義、演習、映像など
教科書	新詳地理B(帝国書院) 新高等地図(東京書籍)
使用教材等	新編地理資料2016(とうほう)、2018データブック(二宮書店)、2018地理要点ノート(啓隆社)

科目の目標・内容等

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し
学習における留意点	講義に積極的に参加すること。自ら進んで地図や資料集、関連する本を読むこと。
予習・復習	短時間でよいが復習すると良い。地図も手元においてよく見ること。
評価方法	定期考査・ノート提出・プリント提出・平常点(授業態度等)・小テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	様々な地図と地理的技能	地球儀や地図からとらえる世界、結びつく現代世界地図で読む解く。大縮尺の地図について学ぶ。自然環境と防災、地理的な諸課題と地域調査を学習する。	地形図の読図、主題図の作成ができるか。日本の自然災害の特徴を理香で着ているか。ハザードマップを活用できるか。
2	現代世界の系統地理的考察	世界的視野から見た自然環境と文化諸地域の生活・文化と環境などについて詳しく学習する。	1年次の地理Aと共通する部分が多いので、きちんと基礎的事項を自分のものになっているかどうか。
3	現代世界の地誌的考察	現代世界を、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなどの各地域ごとに考察する。	東アジア・東南アジア・南アジア・アフリカ中南部・ヨーロッパ及びロシア・北アメリカ及び中南アメリカ・オセアニアなど各地域の生活・文化と環境について把握できているか。世界地図を活用できるか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
教養地理	地理A	3	A組～F組	2		70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	手塚登
授業形態	講義・グループワーク・演習・鑑賞
教科書	地理A(東京書籍)
使用教材等	・新編地理資料集2016(東京法令)

科目の目標・内容等

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会を主
学習における留意点	講義に積極的に参加すること。自ら進んで地図や資料集、関連する本を読むこと。
予習・復習	短時間でよいが復習すると良い。地図も手元においてよく見ること。
評価方法	定期考査・ノート提出・プリント提出・平常点(授業態度等)・小テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	地球的課題とその解決に向けた取り組み	地球的諸課題は自然環境や地域性の違いにより、現れ方が異なることを考察させる。それらの原因と解決法について考察する。	人口・食料・都市・環境・資源エネルギーなどの問題の現状が、個別の事例やその原因に照らして理解できたか。解決に向けて自分たちができる取り組みについて、考えられたか。
2	・持続可能な社会の実現に向けた国際協力と日本の取り組み ・自然環境と防災	国連やNGOなどの国家を超えた具体的な取り組みについて考察する。また、日本が国家レベル及び市民レベルで行っている様々な取り組みについて考察する。災害とその原因、対策について考察する。	国連やNGOの存在意義を具体的な活動の例を通じて、認識できたか。災害の原因、対策について、自分自身の問題として理解できたか。
3	・自然環境と防災	災害とその原因、対策について考察する。	災害の原因、対策について、自分自身の問題として理解できたか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
政治・経済	政治・経済	3	3年選択者	2	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	増田 和明
授業形態	選択クラス
教科書	第一学習社 高等学校 政治・経済
使用教材等	東京法令 政治・経済 2017 第一学習社 センター試験対策問題集 ステップアップ 政治・経済 東京法令 ニューコンパスノート 政治・経済

科目の目標・内容等

学習目標	政治、経済、国際関係について考察することをとおして、主権者としての判断力の基礎を養う。
学習における留意点	ディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れるとともに、受験に対応できる内容とする。
予習・復習	予習を前提とした授業を構成、復習を習慣づけるための毎時間確認テストの実施
評価方法	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治の基本原則と日本国憲法 現代の国際政治と日本 	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の三大基本原則について考察させるとともに、三権と地方自治、選挙制度について深く考えさせる。 二次大戦後の国際関係、国連のしくみや課題、民族問題や領土問題について深く考えさせる。 	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)により、関心意欲、基礎基本の定着度、思考力、判断力、論理性の観点から評価する。また、授業への取組をとおして、表現力やプレゼンテーション能力の観点を加味する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 現代経済のしくみと特質 国民経済と国際経済 	<ul style="list-style-type: none"> 三つの経済主体と経済活動について考察させ、市場経済の機能、金融財政政策、中小企業と農業、消費者、労働問題、社会保障、環境問題について深く考えさせる。 貿易と国際収支、国際経済機関の役割、地域経済統合、経済社会の諸課題、南北問題について深く考えさせる。 	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)により、関心意欲、基礎基本の定着度、思考力、判断力、論理性の観点から評価する。また、授業への取組をとおして、表現力やプレゼンテーション能力の観点を加味する。
3	現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障の課題、格差問題、農業・食糧問題、情報化社会の課題、資源・エネルギー問題、国際化と日本の問題について、テーマを設定して考えさせる。 	定期考査、提出物(ノート、問題集、プリント)により、関心意欲、基礎基本の定着度、思考力、判断力、論理性の観点から評価する。また、授業への取組をとおして、表現力やプレゼンテーション能力の観点を加味する。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
教養倫理	倫理	3	A組～F組選択者	2		70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	手塚登
授業形態	講義・グループワーク・演習・鑑賞
教科書	高等学校倫理(第一学習社)
使用教材等	最新倫理資料集三訂版(第一学習社)

科目の目標・内容等

学習目標	日本人の思考法・行動の仕方に影響を与えた思想や宗教を学び、自分の生き方を客観的かつ主体的に考えられるようにする。
学習における留意点	講義に積極的に参加すること。自ら進んで考え、発表し、関連する資料・本を読むこと。
予習・復習	短時間でよいが復習すると良い。自分自身の生き方に引き付けて理解する。
評価方法	定期考査・ノート提出・プリント提出・平常点(授業態度等)・小テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	<ul style="list-style-type: none"> 古代インドの思想文化と仏教思想の起源・仏教思想の展開。 日本における仏教の発展・儒家の思想と道家の思想 	<ul style="list-style-type: none"> ゴータマ＝シッタッタにいたるまでのインド思想の特徴と、ゴータマによる悟りの内容、ゴータマ亡き後の仏教思想の発展について理解する。 日本における仏教の受容から鎌倉仏教における仏教の日本化についてその特色を理解する。 儒家と道家の思想の特色を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仏教を産んだ土壌とゴータマの悟りの内容、その後の仏教の発展について理解できている。 日本における受容から仏教の日本化についてその特色を理解できている。 儒家と道家の思想の特色を理解出来ている。
2	<ul style="list-style-type: none"> 日本儒学の展開 国学と庶民の思想 西洋思想の受容と近代日本の思想 	<ul style="list-style-type: none"> 日本における儒学の受容と江戸時代における朱子学思想・陽明学などの思想・古学派の思想などを理解する。 江戸時代の独自思想としての国学の発展と庶民の思想について理解する。 明治時代以降の西洋思想の受容と伝統思想との癒合により生まれた独自の思想について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本における儒学の受容と江戸時代における朱子学思想・陽明学などの思想・古学派の思想などを理解出来ている。 江戸時代の独自思想としての国学の発展と庶民の思想について理解できている。 明治時代以降の西洋思想の受容と伝統思想との癒合により生まれた独自の思想について理解できている。
3	<ul style="list-style-type: none"> 西洋思想の受容と近代日本の思想 	<ul style="list-style-type: none"> 明治時代以降の西洋思想の受容と伝統思想との癒合により生まれた独自の思想について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 明治時代以降の西洋思想の受容と伝統思想との癒合により生まれた独自の思想について理解できている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。